

## 学会ニュースNo.115 トピックス

- ・立正大学地理学教室創立90周年記念事業
- ・評議委員会報告
- ・研究委員会の設置と募集のご案内
- ・地理トピ
- ・2015年度第112回臨地研究会のご案内
- ・総会報告
- ・第70回立正地理学会研究発表大会報告
- ・会費納入のお願い

## 会告

### ○立正大学地理学教室創立 90 周年記念事業

1925年1月、地理学科の前身である立正大学専門部歴史地理科が認可されて今年で90年になります。これを慶賀し、地理学科では以下のような記念事業を実施します。在学生や卒業生の皆さん、そして立正地理を愛する皆さんの参加を心よりお待ちしております。詳細は、90周年記念事業用ホームページ(<http://rissho-map.jp/90th.html>)でもご案内しています。お誘い合わせの上、ご参加下さい。

#### 記念講演会 I

日時:2015年10月27日(火)16時10分～17時40分

会場:熊谷キャンパス 1号館1101教室

講演者:稲葉和雄氏(日本デジタル道路地図協会・前国土地理院長)

演題:2万5千分1地形図整備完了と地理空間情報の活用

司会・進行:小松陽介氏(立正大学教授)

参加申込:不要(満席により着席できない場合もございますのでご了承ください。)

#### 記念講演会 II・式典・祝賀会

日時:2015年11月3日(火)13時30分より

会場:アルカディア市ヶ谷 富士(東)の間

(東京都千代田区九段北4-2-25)

#### 〈記念講演会 II〉

時間:13時30分～14時30分

講演者:堂前亮平氏(久留米大学名誉教授・日本都市学会会長)

演題:「立正地理」から学んだことと、その継承

#### 〈記念式典〉

時間:14時45分～15時30分

#### 〈記念祝賀会〉

時間:15時45分～17時30分(予定)

参加申込:90周年記念事業用ホームページをご覧の上、お申し込み下さい。

式典・祝賀会参加者には『立正大学地理学教室創立90周年記念誌』を配布予定です。

※記念講演会への参加は無料ですが、式典・祝賀会への参加は有料です。

主催:立正大学地理学教室創立 90 周年実行委員会  
共催:立正大学地理学教室・立正地理学会・立正地理学振興会  
協賛:立正大学地球環境科学部同窓会

## ○2015 年度第 112 回臨地研究会のご案内

1. 日時:2015 年 11 月 22 日(日)10 時 00 分～16 時 00 分
  2. 集合場所・時間:小田急線秦野駅改札前 10 時 00 分までに集合
  3. テーマ:秦野における人と水の地誌—今昔
  4. 案内者:大塚昌利、小田巻滋、谷口智雅、戸田真夏
  5. 参加費:500 円(資料代・保険代)
  6. コース:秦野駅—尾尻地区(弘法清水、今泉桜公園などの湧水地)—今泉地区(湧水地区での住宅地造成、湧水による灌漑地の現状)—平沢地区(掘り抜き井戸の現状、湧水と水神祠)—渋沢地区(室川を渡る水道管)—渋沢駅  
50 年以上前の田中啓爾先生の巡検コースをめぐり、秦野の今昔を考えます。  
※昼食は各自持参。途中どこかで 40 分ぐらい昼食休憩。
  7. 解散場所・時間:小田急線渋沢駅 16 時 00 分頃を予定
  8. 募集定員:30 名(先着順)
- ◎内容に変更があった場合は、案内者からの連絡によってお知らせいたします。

### ○臨地研究会の申込み

締め切りは 10 月 30 日必着とします。送り先、メールアドレスおよび FAX 番号は次の通りです。

住所:〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 三重大学人文学部 谷口智雅  
メールアドレス:taniguchi@human.mie-u.ac.jp FAX 059-231-9152

参加を希望する会員は、メール、はがき、あるいは FAX に氏名、住所、連絡先(メールアドレスか電話番号)、所属を明記して谷口智雅会員宛にご連絡ください。

### ○災害等により開催が困難な場合の対応

地震や台風またはその他のやむを得ない理由によって臨地研究会の開催が困難な場合は、案内者からの連絡によってお知らせいたします。

### ○会員の皆様へのお願い

案内者グループは、秦野巡検をはじめ田中啓爾先生の巡検の写真や資料を探しています。お持ちの方はお手数ですが、上記の谷口智雅会員宛にご一報ください。

## ○2015 年度立正地理学会評議委員会報告

2015年6月5日(金)18時より、立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ6階会議室において、出席者13名、委任状提出者13名、計26名にて評議委員会が開催された。議事では、2014年度事業報告が島津常任委員長よりなされた。次に、2014年度決算報告が大石雅之庶務会計委員よりなされ、いずれの事項も承認された。引き続き、2015年度事業計画・予算案が提出され、いずれの事項も承認された。

## ○2015 年度(第70回)立正地理学会総会報告

2015年6月6日(土)10時45分より、立正大学熊谷校舎アカデミックキューブA203教室において、出席者57名、委任状提出者132名、計189名にて総会が開催された。正議長に谷口智雅会員、副議長に小川滋之会員を選出し議事に入った。議事では、2014年度事業報告が島津常任委員長から、決算報告が大石雅之庶務会計委員から、会計監査報告が吉本会計監査からなされた。審議後、いずれの事項も承認された。引き続き、2015年度事業計画案、予算案、立正地理学会名誉会員案が提出され、審議後いずれの事項も承認された。また、研究委員会の承認に関する報告、立正大学地理学教室創立90周年記念事業の実施に関する説明がなされた。

## ○2015 年度立正地理学会研究委員会について

□2015年度発足の研究委員会として1件の応募があり、次の1件が認められました。

委員会名:「台地の地理」研究委員会

代表者:戸田真夏会員

研究期間:2015年4月~2017年3月

研究テーマ:台地の上下平坦面および斜面における自然条件と人々の生活との関係

助成額:100,000円(2015年度)

なお、委員の追加募集の期間は終了しています。

(常任委員長 島津弘)

## ○立正地理学会研究委員会の募集(新規)

2016年度の研究委員会を募集します。希望者はホームページ上または立正地理学会ニュース No.112, No.113に掲載された「立正地理学会研究委員会に関する規程」を熟読の上、規程の5の内容を明記した趣旨書を、島津常任委員長宛(当面の間、常任委員長扱いとします)に郵送(住所等は最終ページに記載してあります)、またはメール(アドレス: geosoc@ris.ac.jp, 件名:立正地理学会研究委員会応募)で提出して下さい。2016年4月8日(金)を締切日と致します。応募件数が多い場合は調整することがあります。

(常任委員長 島津弘)

## ○2015 年度(第 70 回)立正地理学会研究発表大会報告

### 1. 2015 年度 研究発表大会の概要

日 時:2015 年 6 月 6 日(土)9:30 より

会 場:立正大学熊谷キャンパス アカデミックキューブ 2 階  
A203 教室(発表会場)・A202 教室(会員控室)

大会参加人数:約 70 人



写真 1 口頭発表(武江翔太会員撮影)

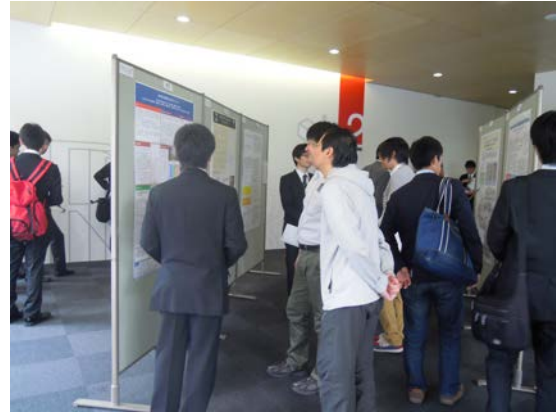


写真 2 ポスター発表(松澤希望会員撮影)

### 2. 2015 年度発表大会取材レポート

研究発表に関する広報委員の取材レポートです。

#### 〈口頭発表〉

**大石雅之会員(立正大):ハヶ岳火山東麓で 9 世紀に発生した山体崩壊の誘因の再検討**

本研究は、9 世紀に発生したハヶ岳火山東麓で発生した大月川岩屑なだれの誘因について、従来の研究では地震が原因であるという説がありました。しかし、火山噴火による可能性もあるとして、古記録の解析や火山灰の分析を行うことで再検討を行った研究をまとめられたものでした。

この発表で私が興味を持ったことは、人間と自然が遺したものとの両方を関連付けながら調査を進めるということです。自然と人文の様々な要素を組み合わせることで、地域を明らかにする地理学の面白さについて改めて感じることができました。卒業論文を書く際には、今回の発表の考え方を参考にしたいと思います。

(広報委員 飯山和也)

**萩原八郎会員(四国大):ブラジルタウン大泉町の多文化共生の現状**

群馬県大泉町は群馬県内でも屈指の工業都市であり、関連工場には多くの外国人が働いています。そのため人口の約 1 割がブラジル人となっていて、国道 354 号線に沿って多くのブラジル人向けスーパーや飲食店などが立ち並び、ブラジルタウンを形成しています。本発表はブラジル人向け飲食店において行った参与観察をもとに多文化共生についてまとめられたものです。

大泉町における多文化共生の進展として、小中学校に日本語学級の設置や多文化共生コミュニティセンターの開設、標識へのポルトガル語併記などが行われているという点は興

味深いものでした。萩原先生の発表から、多文化共生とは単なる文化交流ではなく、日本人も外国人も同じ居住者としてともに日常を営むことにあるという点やブラジルトウンとして町を広報すること、多文化共生の推進には多少のズレが生じているということ学ぶことができました。日本人と外国人がもっと互いの文化を理解し尊重し合うことで、誰もが住みやすい街になっていくのではないかと思います。

(広報委員 武江翔太)

### 〈ポスター発表紹介〉

**片柳 勉会員(立正大):観光まちづくりへの貢献をテーマとした地域連携による教育・研究活動の有用性**

本発表では観光まちづくりへの貢献をテーマとした地域連携による教育・研究活動の有用性について発表されていました。具体的な活動として、学生が主体となって妻沼地区の住民の方々と一緒に作製した、『めぬま観光読本。』という観光パンフレットが事例としてあげられていました。この活動終了後の学生アンケートでは、積極性や対話する力が身についたという声が多く聞かれました。このアンケートの意見の一部では、観光マップや観光パンフレットを作成し、地元の方から感謝の言葉をいただき、それが学生のやる気につながったそうです。この発表を見て、実際に調査する場所に行き、地元の方に話を聞くことで調査する場所の良さなどを多く発見できるのだと感じました。私もそれらの点を参考に現地調査をすすめていきたいと考えています。

(広報委員 井藤志穂)

### 〈地理写真紹介〉

**横山貴史会員(立正大):チリの海藻産業**

研究はチリ共和国(以下、チリ)の海藻産業における原料海藻の採取および流通について、北部アタカマ州において現地調査を行ったものです。チリでは一般的に食されている海藻はコチャジュージョと言い、ケチュア語の「湖の草」を意味します。

チリの海藻利用として食用よりも大きなものは工業用途です。その一つがアルギン酸工業です。チリでは、海藻(褐藻類)からアルギン酸を抽出し、粉末状にしたものを販売しており、世界的にも大きなシェアを占めています。アルギン酸原料海藻の生産量はアタカマ州をはじめとした北部地域に多いですが、その要因としてアタカマ州がアタカマ砂漠の南端に位置し、晴天日が多く乾燥しやすい気候であることが挙げられます。そのため、海藻を乾燥し粉砕する際のコストがあまりかからないことから海藻産業が盛んになったと推測できます。今後の課題として、海藻産業を続けていくためにアルギン酸の資源管理をどうするのが挙げられていました。チリと日本は遠く離れていますが、アルギン酸は我々が普段から使用している加工食品や化粧品に含まれており、普段の生活に欠かせないものです。海藻とアルギン酸の存在を通して、チリを身近に感じられた良い機会でした。

(広報委員 松澤希望)

### 〈学生インタビュー〉

2015年度発表大会に参加した立正大学地理学科の学生のみなさんから、大会に参加しての感想や学んだことについてインタビューしました。今年参加しなかった学生のみなさんはぜひ来年度の大会に参加しましょう。

地理学科 1年 荻島章太さん

今回とくに興味を持ったのは、吉本勇先生の「ブリスベン(オーストラリア)における都市景観の変容(2003-2014)」のポスターです。この研究は、10年間で景観が大きく変わってしまうことや、商業施設の立地によって人の流れが変わることについて学ぶことができました。また、自分が興味を持っている分野以外の研究を多数みることができ、今後の学びに役立てていきたいと思います。

地理学科 2年 黒滝昇さん

今回興味を持った発表は、片柳先生の「観光まちづくりへの貢献をテーマとした地域連携による教育・研究活動の有用性」です。この研究では、妻沼を舞台に学生が主体となって地域連携を重視した研究を行ったことについて紹介されていました。観光分野におけるまちづくりや、地域について色々な視点からの見方などを学ぶことができ、勉強になりました。

地理学科 2年 長谷川樹生さん

私が興味を持ったポスターは郷原裕生さん、高橋宏光さん、片柳勉先生の「大津市坂本における土地利用の変化」です。観光地における中心地は衰退しないというイメージでしたが、この発表を見て中心部の衰退は観光地でも例外ではないということに、とくに興味を持ちました。土地利用の変化を明らかにするために、時代ごとの土地利用図を使って分析している点はとても参考になり、また観光地化していく変化がよく分かりました。今後、都市を調査する際には土地利用の変化を1つの指標として考えていきたいと思いました。

(広報委員 飯山和也・井藤志穂)

### 〈先輩から学生のみなさんへのメッセージ〉

2015年度発表大会に参加しておられ、さまざまな分野で活躍されている地理学科OBの方々に学生のみなさんへのアドバイスなどを頂きました。

稲村明彦さん(産業技術総合研究所)

在学中から現在まで、水質や環境同位体を用いた水循環・水環境研究に取り組んでいます。地下水・河川水の起源と水質形成、人為による地下水の量的・質的変化の定量的評価などが主なテーマです。大学で学んだ野外調査の楽しさ、現象の仕組みを調べる面白さに惹かれ現在に至っています。

学生のみなさんも様々な興味関心を持って地理学を学ばれていると思います。講義や実習、広範な文献渉猟や研究発表会への参加などによりそれらを発展させ、卒業研究やその後の社会生活に繋げていただきたいと思います。また、私的な旅行、ちょっとした野歩き・街歩きなどの際にも「フィールドワーク」を意識して、野外における観察眼を磨いていただきたいと思います。

(広報委員 武江翔太)

小川滋之さん(千葉大学大学院園芸学研究科)

大学時代は小松先生のもとで「外秩父山地笠山におけるブナ林の分布の立地環境」をテーマとし、埼玉県外秩父山地における現地調査によりブナの分布を地質の違いから研究しました。

現在は、千葉大学大学院園芸学研究科で理数学生応援プロジェクトという早期教育カリキュラムの担当教員をしております。大学1年生を対象に、地形図の読み方やフィールドワークの手法、レポートの作成方法など、研究を始める前の基礎を教えることを主に担当しています。私が大学1年生の頃、「基礎地図学および実習」の授業レポートで苦労した経験が、

教える立場となって大いに役立っているように思います。

地理学科生のうちに行ったほうがよいことは、国内外を問わず様々な地域を訪問し、世界を知ることではないでしょうか。様々な地域で出会う人々、風土、どれも非常に興味深いものがあります。こうした経験は進路にはもちろん、社会に出た後にも活かすことができます。皆さん、様々な地域に積極的に足を運んでみて下さい。

(広報委員 松澤希望)

## ○地理トピ

地理トピ第2回は、立正地理学会の会長を務めていらっしゃる、内山幸久会員に立正地理学会に関する思い出話を綴っていただきました。

### 「地域研究」発行の思い出

内山幸久 立正地理学会会長

小生が立正大学に赴任したのは1979年4月であった。当時、立正大学地理学科の教員や大学院生の諸氏は一体となって、立正地理学会の委員会活動を行っていた。小生も立正地理学会の会員となったが、赴任1年目ということで、委員会活動を行うことはなかったが、2年目の1980年にいきなり編集委員長に任ぜられた。それで「地域研究」の年2回の編集・発行と「立正地理学会ニュース」の年3回の編集・発行を担当することになった。

「地域研究」の発行においては、とにかく原稿を集める作業が大変であった。ことあるたびに原稿依頼を会員諸氏にお願いしたが、ままならないことが多かった。そこで、小生が知っている他大学の先生方にも立正地理学会の会員になっていただき、それらの会員にも、原稿を依頼するのが良いと考え、筑波大学や首都大学東京、埼玉大学の地理学関係の先生方に声をかけ、会員になっていただいた。とはいっても、それらの大学のいくつかでも何らかの地理学会活動を行っているわけで、小生はそれらの大学で主管する学会の会員にもなった。それでも原稿は足りず、小生自らが地域研究に投稿した原稿も多い。

さらに悩ませたのが、立正地理学会の財源不足であった。立正地理学会の予算規模は小さく、「地域研究」の発行費が十分でなかった。「学会活動の根源は学会誌の発行にある」というのが小生の基本的考え方であったので、当時、立正地理学会編集委員であった山口雅功先生(現、立正大学名誉教授)と相談して、地域研究に各社の広告を掲載し、それで、費用不足を補おうということになった。そこで、小生や山口先生のおつてのある二宮書店や古今書院、大明堂、弘詢社、城北測器などの各社に広告の掲載をお願いした。これらの会社には、助けていただいたので、敬意を表している。

財源不足を補うための二つ目が、編集作業の割付作業であった。雑誌等の編集に当たっての割付作業にはそれなりの費用がかかる、そこでこの費用を浮かすために、割付紙を用いて作業をするのである。とはいっても山口先生を除くと、割り付け作業については素人ばかりである。そこで弘詢社の松島弘社長に指導をいただき、「地域研究」の割付作業を行った。この作業には小生や山口先生のほかに、吉本勇先生(現、就実大学教授)、雨宮優先生(元山梨県高校教員、故人)、大西隆志先生(現、大分県高校教員)らの、当時の立正大学大学院生で編集委員の諸氏とともに作業を行った。この作業には1冊の「地域研究」の発行において、2~3日かかったが、この作業の多くは土曜日に行われた。小生は「地域研究」の編集を1980~1985年にかけて行ったが、この委員を離れた時にはほっとしたところがあった。

## ○会費納入のお願い

2015 年度分の会費が未納の方には、今回の学会ニュースに「会費納入状況のお知らせ」と「払込取扱票」を同封しておりますので、ご納入下さい。また、過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円  
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際は、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。

※今年度をもって退会を希望される方は、3 月末日までにご連絡下さい。ご連絡がない場合は、自動的に次年度継続として、会費の請求を行わせて頂きます。

(庶務会計委員会)

### 編集後記

厳しい暑さが続いた熊谷キャンパスでも虫の声がきこえ、秋の訪れを感じます。6月の立正地理学会では多くの方々に参加して頂き、またインタビューや原稿依頼のご協力を心より感謝申し上げます。秋には講演会が2回開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

(広報委員 井藤志穂)

### 立正地理学会ニュース No.115

2015年9月28日発行 編集者 立正地理学会広報委員会  
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内  
電話 048-539-1672 振替 00130-8-13453